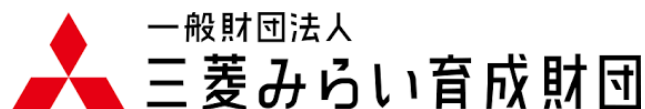


【採択決定】洛星の探究、三菱みらい育成財団の先導的モデルに選出。 自ら未来を切り拓く「人生の素地」を作る。

――2026年度はパナソニックと協創。リアルな社会課題への挑戦を通じ、自ら未来を切り拓く「確かな人間力」を育成します。



学校法人ヴィアートル学園 洛星中学校・高等学校（所在地：京都市北区、理事長：島田眞路、校長：小田恵、以下「洛星」）が推進する探究プログラム「Rakusei Forge（ラクセイ・フォージ）」が、一般財団法人三菱みらい育成財団（所在地：東京都千代田区、理事長：宮永 俊一）の2026年度助成事業（カテゴリー1：先導的教育プログラム）に採択され、3年間の資金助成を受けることが決定しました（全カテゴリー合計の応募総数436件から84件が採択）。これを受け、洛星はパナソニックグループ（パナソニック株式会社、パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社）と連携した社会接続型プログラム「SDGs Frontier Project」を、高校2年生の正規カリキュラムとして正式に始動いたします。

洛星の探究が目指すもの：アカデミックの先取りではなく「人生の素地」作り

洛星における「総合的な探究」の時間（以下、探究）は、大学の研究を早期体験することだけを目的とはしていません。生徒は、探究を通じて、自ら問いを見つけ、主体的に解決に向けて課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現を繰り返す「探究の基本プロセス」のスキルを身に付けます。そして、このプロセススキルを自らの人生設計に適用していくことで、自分の「好き」、「なりたい姿」を見つけ、それを形にする力を身につけることを目指します。本校は、探究によって、生徒の「人生の素地」を作るサポートができると考えています。

■ 探究の基本プロセススキルの習得：

情報を精査し、問いを立て、他者と協働して社会に実装する。この普遍的なスキルを、6年間の多層的なサイクルを通じて「思考の筋力」として鍛え上げます。

■ 未来設計の結果としての探究：

洛星でこの「型」を習得した生徒たちは、自らの志（心のエンジン）を始動させます。その結果として必要になれば、大学レベルの高度な研究にも、自律的に踏み出していけるようになると考えています。

Rakusei Forge：従来の探究を凌駕し、志を形にする「鍛冶場」

「Rakusei Forge」は、創立以来のキリスト教的価値観に基づく「人の痛みに気づく」、「互いに愛し合う」教育と現代のエージェンシー（主体性）育成を融合させた6年間の教育体系です。

■ 基礎期（中1・2）：世界を知る

他者への共感力を育み、情報の精査・収集の作法を習得する。

■ 充実期（中3・高1）：世界に出会う

大学や企業人との「真正性のある出会い」を通じ、社会的視野を拡大する。

■ 発展期（高2・3）：世界と協創する

実社会の「答えのない課題」に挑み、社会的解決力へと昇華させる。

SDGs Frontier Project：

「自分たちなりの答え」を生み出す学びへ。パナソニックとの連携による商品企画探究プログラム

本プロジェクトは、発展期において、実社会の「答えのない課題」に挑むために、今年度より社会接続の体験として新たに組み込まれました。協力いただく企業様からは、企業として解決したいテーマを提供いただき、生徒たちは、テーマに対する課題解決の検討を行い、かつ、SDGsへの貢献も意識しながら、基礎期・充実期で培った主体性・知力・発想力・コミュニケーション能力を駆使して、「自分たちなりの答え」を生み出すプロセスを習得します。本校は、従来から三位一体の支援体制（学校・保護者・OB）で生徒の成長を強力に支援しており、このプロジェクトについても同様に支援していきます。

■ 社会接続の体験：

企業から提示されるテーマに対し、単なるアイデア出しに留まらず、生成AIの活用やプロトタイプ制作、専門家による多層的なフィードバックを経て、学園祭での一般投票までを行う、徹底した社会接続の体験を提供します。

■ 三位一体の支援：

学校だけでなく、強力なネットワークを持つ同窓会（OB）や保護者会が「当事者」として企業連携を支える協力体制が、生徒の「世界との協創」を強力にバックアップします。

2026年度の高校2年生約210名が挑むのは、パナソニック株式会社ビューティー・パーソナルケア事業部から提示された「高校生にヒットする理美容家電の商品企画に挑戦 - with SDGs -」というミッションです。今回は、以下のような流れで取り組みを進めています。

■ マーケティング基礎講座：

現役のパナソニックのマーケティング担当の社員によるマーケティング基礎知識の講座を受講します。

■ 課題の設定：

テーマに対するターゲット層の設定、解決すべき問題の深堀、解決策に向けた調査・ヒアリングの方針をグループに分かれて討議し、課題を設定します。

■ 情報収集：

ターゲット層へのインタビュー調査、デスクトップ調査、店頭調査など、各自の主体性に任せた情報収集を実施します。

■ 整理・分析：

グループ毎に情報を整理・分析をして、各自の洞察から課題を解決する商品企画につなげます。また、社員がメンターとして、オンラインで相談を受け、彼らの活動を伴走します。

■ まとめ・表現：グループ毎にプレゼン資料を作り上げ、中間発表会を実施し、社員によるフィードバックを受け、企画をさらに磨き上げます。さらに、クラス代表決定戦、最終発表会において、社員によるプロ目線の講評をもらい、学年全体で成果と学びを総括します。

なお、この取り組み成果については、2026年9月18日（金）～20日（日）の文化祭にて一般公開します。

学校長（小田 恵）メッセージ

今回の採択は、本校が培ってきた「他者への奉仕」というカトリック精神に基づく教育が、予測困難な未来を切り拓くリーダーシップの礎であることを認めていただいた結果です。パナソニックグループ様という第一線のパートナー、そして本校の誇る卒業生や保護者の皆様と連携し、生徒たちが「答えのない課題」に挑む中で、自らの「好き」や「なりたい姿」を見つけ、社会を変える「心のエンジン」を始動させることと確信しています。

SDGs Frontier Project 授業担当者（岡本 一輝）メッセージ

高2の総合的な探究の時間を担当するにあたり、洛星の多方面にわたるつながりを生かした、洛星ならではの探究を実践できないかと考えてきました。今回の企画はまさにその思いと重なるものです。

パナソニックグループ様には実社会の視点に立った質の高い授業をご提供いただき、生徒達は真剣に向き合って探究活動を進めています。

洛星の発展期にふさわしい探究を模索した成果を、文化祭の学年展示にてご覧いただければ幸いです。

プロジェクト責任者（田邊 篤志）メッセージ

洛星の探究は、生徒たちが将来、不確実な世界の荒波の中でも自らの足で立ち、社会に奉仕する人となるための「心のエンジン」を実装する場です。今回の採択を機に、大学研究の先取りといった既存の枠組みを超え、実社会の課題と対峙することで、自分の人生を自分で生きるための力を身に付けてほしいと考えております。その経験を武器に自らの未来を切り拓く力を育む「先導的モデル」を京都から発信してまいります。

今後の展望：京都から全国へ、教育改革の先導モデルを

今後は地元京都の企業とも連携を拡大し、3カ年計画で本プログラムを正規カリキュラムとして完全に定着させます。この取り組みが、日本における「エージェンシー（主体性）育成」の先導的なモデルとなるよう、その成果を広く社会に発信してまいります。

一般財団法人 三菱みらい育成財団「カテゴリー1」について

三菱グループ創業150周年記念事業として2019年に設立された同財団は、日本の未来を切り拓く次世代人材の育成を目的としています。なかでも「カテゴリー1」は、「高等学校等が学校現場で実施する『心のエンジン』を

駆動させるプログラム』を対象とした助成事業です。生徒が主体的に問いを立て、協働して課題解決に挑む、優れた「探究学習」等の取り組みに対して、原則3年間にわたる資金的・伴走的な支援が行われます。

“Rakusei Forge”は、この厳正な審査を経て採択された先進的な教育プログラムです。

(財団公式サイト：<https://www.mmfe.or.jp/>)

【パナソニックグループについて】

パナソニックグループは、パナソニックホールディングス株式会社、6つの主要事業会社、その他国内外の関係会社から構成されています。

1918年に、松下幸之助が松下電気器具製作所を設立・創業し、1935年以降、松下電器産業株式会社、パナソニック株式会社への社名・体制変更を経て、2022年4月1日にパナソニックホールディングス株式会社を持株会社とする事業会社制（持株会社制）へ移行しました。

「物と心が共に豊かな理想の社会」の実現に向けて、現在は、AIインフラを支えるデバイス領域（電池や電子デバイス・産業デバイスなど）、社会オペレーションを支えるソリューション領域（B2Bソリューション、空質空調・コールドチェーン、電気設備・照明など）、家電を中心としたスマートライフ領域といった幅広い事業領域で、社会課題の解決に貢献する技術や製品・ソリューションをグローバルに提供しています。

パナソニックホールディングス株式会社の2025年度における連結売上高は8兆487億円です。

URL: <https://holdings.panasonic.jp/>

【洛星中学校・高等学校について】

1952年、カトリックの聖ヴィアートル修道会によって京都に設立された男子中高一貫校です。「心・頭・体」をバランスよく成長させる全人教育を基本とし、キリスト教的価値観に基づく「他者への奉仕」を重んじる伝統を守っています。

- **所在地**：京都市北区小松原南町33
- **生徒数**：1,244名（中学：598名、高校：646名）
- **教職員数**：約100名
- **Graduation Policy（輩出したい人材像）**：
「強靱で豊かな心を持ち続け、他者と協働し、世界をよりよくするために奉仕する人」
- **Curriculum Policy（教育内容の編成方針）**：
「グローバル・実体験・発展的共生を重視し、確かな学力を礎として開かれた将来を保障する」
- **2026年度 進学実績（速報）**：
東京大学：7名（うち現役3名）、京都大学：58名（うち現役42名）、大阪大学：18名（うち現役13名）、神戸大学：19名（うち現役12名）、北海道大学：10名（うち現役5名）、
国立大学医学部医学科：39名（うち現役22名）
- **Webサイト**：<https://www.rakusei.ac.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

学校法人ヴィアートル学園 洛星中学校・高等学校

探究担当：田邊 Email: atsushi.tanabe@rakusei.ac.jp

広報担当：荻本 Email: eri.ogimoto@rakusei.ac.jp

電話：075-466-0001